

港南区地域子育て支援拠点事業 5か年のまとめ 実施概要

対象事業	港南区地域子育て支援拠点事業
対象期間	令和4年度～令和8年度(5か年)
事業の実施者	特定非営利活動法人ちゅーりっぷ
	港南区こども家庭支援課
実施目的	1 今期5か年の事業を振り返り、成果や課題、今後の方向性などを整理します。 2 市民協働事業の実践を通じて経験を蓄積し、その後の市民協働や市民協働事業に生かしていくため、また、当該協働事業の当事者だけでなく、多くの市民等の協働への参加意欲を高めるため、当該評価を公開し、透明性を高めます。
実施時期	令和8年8月
実施について	拠点事業は、区と運営法人との協働により進めています。 毎年度、事業ごとに定めている「目指す拠点の姿」に沿って役割分担し、行動計画を立て、年度末には「振り返りの視点」に沿って取組の振り返りを行いながら事業を進めてきました。また、中間期には「有識者を交えた事業評価」を実施し、事業の運営・管理にフィードバックして拠点運営状況の向上を図っています。 今回は、中間期に行った「有識者を交えた事業評価」を踏まえ、今期5か年のまとめとしました。 【参考】拠点の7事業 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること (横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)																																																																																																																															
		法人	区																																																																																																																														
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	・安心して子育てに臨めるよう、妊娠期から拠点を活用していたために、産婦人科医療機関等と連携をした拠点の周知活動や、母子保健コーディネーターと課題共有・連携することで、参加しやすいイベント開催に向けた取組が必要である。 ・様々な方が利用しやすいよう、提示物の工夫や遊具等の配置に気を付けた環境づくり、アウトリーチ活動も含めた居場所提供により一層取り組んでいく必要がある。	A	A																																																																																																																														
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		A	A																																																																																																																														
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		A	B																																																																																																																														
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		A	B																																																																																																																														
評価の理由(法人)																																																																																																																																	
(主なデータ) H31年度乳幼児健診アンケート(区実施) ・はっちではほっとしたり安心して過ごせますか？　そう思う　54.0％　　そう思わない　5.0％　　どちらともいえない　41.0％ R3年度はっち利用者アンケート(拠点実施) ・親子で楽しく過ごせている　98.0％ ・コロナ感染予防対策に関して　安心して利用できる　96.0％ R5年度乳幼児健診アンケート(区実施) ・拠点を知った時期はいつか　妊娠期までに知った　68.0％　　産後知った　31.0％ ・利用者を温かく迎える雰囲気があるか　そう思う　94.0％　　どちらともいえない　3.8％ R7年度はっち利用者アンケート ・親子で楽しく過ごせている　はっち98.6％　サテライト99.5％ ・はっちの居心地やスタッフの対応はいかがですか　とてもよい　はっち81.6％　サテライト81.6％ 拠点利用実績(受付システム)R6年度から拠点システム導入により利用組数の把握ができなくなった <table><thead><tr><th rowspan="2"></th><th colspan="2">利用組数(組)</th><th rowspan="2">利用人数 (人/年)</th><th colspan="7">利用者 親等 内訳(人/年)</th><th>新規登録者数</th></tr><tr><th>年間</th><th>1日平均</th><th>父</th><th>母</th><th>祖父</th><th>祖母</th><th>プレパパ</th><th>プレママ</th><th>その他</th><th>総数</th></tr></thead><tbody><tr><td>R3 年度</td><td>10,892</td><td>45.4 組</td><td>22,470</td><td>1,037</td><td>9,348</td><td>6</td><td>78</td><td>118</td><td>146</td><td>159</td><td>727</td></tr><tr><td>R4 年度</td><td>12,127</td><td>50.1 組</td><td>24,369</td><td>1,325</td><td>10,034</td><td>11</td><td>98</td><td>154</td><td>187</td><td>318</td><td>851</td></tr><tr><td>R5 年度</td><td>12,897</td><td>53.3 組</td><td>25,302</td><td>1,759</td><td>10,088</td><td>30</td><td>138</td><td>180</td><td>247</td><td>455</td><td>934</td></tr><tr><td rowspan="3">R6 年度</td><td>はっち</td><td>110 人</td><td>26,575</td><td>1,933</td><td>9,867</td><td>1</td><td>31</td><td>155</td><td>335</td><td>511</td><td>—</td></tr><tr><td>サテライト</td><td>167 人</td><td>167</td><td>8</td><td>69</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>80</td><td>—</td></tr><tr><td>合計</td><td></td><td>26,742</td><td>1,941</td><td>9,936</td><td>1</td><td>31</td><td>155</td><td>336</td><td>591</td><td>2,178</td></tr><tr><td rowspan="3">R7 年度</td><td>はっち</td><td>95 人</td><td>22,878</td><td>1,625</td><td>8,418</td><td>0</td><td>44</td><td>195</td><td>311</td><td>510</td><td>—</td></tr><tr><td>サテライト</td><td>134 人</td><td>32,367</td><td>2,825</td><td>12,210</td><td>22</td><td>102</td><td>23</td><td>82</td><td>698</td><td>—</td></tr><tr><td>合計</td><td></td><td>55,245</td><td>4,450</td><td>20,628</td><td>22</td><td>146</td><td>218</td><td>393</td><td>1,208</td><td>1,686</td></tr></tbody></table>					利用組数(組)		利用人数 (人/年)	利用者 親等 内訳(人/年)							新規登録者数	年間	1日平均	父	母	祖父	祖母	プレパパ	プレママ	その他	総数	R3 年度	10,892	45.4 組	22,470	1,037	9,348	6	78	118	146	159	727	R4 年度	12,127	50.1 組	24,369	1,325	10,034	11	98	154	187	318	851	R5 年度	12,897	53.3 組	25,302	1,759	10,088	30	138	180	247	455	934	R6 年度	はっち	110 人	26,575	1,933	9,867	1	31	155	335	511	—	サテライト	167 人	167	8	69	0	0	0	1	80	—	合計		26,742	1,941	9,936	1	31	155	336	591	2,178	R7 年度	はっち	95 人	22,878	1,625	8,418	0	44	195	311	510	—	サテライト	134 人	32,367	2,825	12,210	22	102	23	82	698	—	合計		55,245	4,450	20,628	22	146	218	393	1,208	1,686
	利用組数(組)		利用人数 (人/年)		利用者 親等 内訳(人/年)							新規登録者数																																																																																																																					
	年間	1日平均		父	母	祖父	祖母	プレパパ	プレママ	その他	総数																																																																																																																						
R3 年度	10,892	45.4 組	22,470	1,037	9,348	6	78	118	146	159	727																																																																																																																						
R4 年度	12,127	50.1 組	24,369	1,325	10,034	11	98	154	187	318	851																																																																																																																						
R5 年度	12,897	53.3 組	25,302	1,759	10,088	30	138	180	247	455	934																																																																																																																						
R6 年度	はっち	110 人	26,575	1,933	9,867	1	31	155	335	511	—																																																																																																																						
	サテライト	167 人	167	8	69	0	0	0	1	80	—																																																																																																																						
	合計		26,742	1,941	9,936	1	31	155	336	591	2,178																																																																																																																						
R7 年度	はっち	95 人	22,878	1,625	8,418	0	44	195	311	510	—																																																																																																																						
	サテライト	134 人	32,367	2,825	12,210	22	102	23	82	698	—																																																																																																																						
	合計		55,245	4,450	20,628	22	146	218	393	1,208	1,686																																																																																																																						
1 コロナ禍でも安心して利用できる居場所の感染対策と運営の工夫 ・感染防止対策(職員のマスク着用・手指消毒・前向き抱っこ)を徹底しながら、利用者とのふれあいも大切にした運営を行い、利用統計から安全な入館数を算出して利用方法を確 定し、予約制にはせず不安な利用者をいつでも受け入れる体制とした結果、他区に比べて利用者数を減少させずに運営を継続することができた。 ・感染への緊張が続く中、壁面装飾や音楽など視覚・聴覚を通じた工夫を行い、親子の笑顔を引き出す環境づくりに努めた。これにより、アンケートにおいて高い満足度評価(「楽しく 過ごせている」「居心地がよい」)が維持された。 ・外国語の絵本の設置や参加したくなるイベント告知の広報の工夫など拠点の周知に努めるとともに、拠点から遠い地域に向けて出張はっちや公園あそびを実施する等の工夫を行 い、拠点利用が難しい子育て家庭にも拠点を身近に感じてもらい、実際の利用や相談の増加から、拠点へのアクセス機会の拡がりと多様な利用者層の受入につながっていることが 確認できた。 ・ZOOMによるおしゃべり会や、希望者の多い講座にオンラインを活用し、自宅からでも参加可能な運営を行い、ニーズ把握や継続的な関係づくりにつながった。 ・利用者アンケートの結果では、R5年「利用者を温かく迎える雰囲気がある」94.0％、R7年「親子で楽しく過ごせている」99.0％、「居心地やスタッフ対応がとてもよい」81.0％と、いずれ も両拠点で安心して過ごせる場づくりと親子の育ちを支える機能が十分発揮されていることが確認できた。 ・毎年約200名を対象とした利用者アンケートを通じてニーズ把握を行い、その結果を拠点運営の改善に反映してきた。こうした継続的な取組が、多様な家庭のニーズに応える運営 につながり、利用者数の増加という成果として表れている。																																																																																																																																	
2 妊娠期からの切れ目ない子育て支援 ・区の協力による産婦人科や両親教室での周知、母子保健コーディネーターとの連携、拠点での沐浴体験やプチ体験講座の開催により、妊娠期家庭の来館機会や参加数も年々増 加した。これにより、出産前から拠点とつながる家庭が増え、安心して子育てを始められる環境づくりにつながるとともに、早期からニーズを把握し支援へつなげる基盤の強化につな がった。 ・区の赤ちゃん教室や4か月健診で周知した「あかちゃんのへや」(0歳児専用・予約不要)は遠方からの利用もあり好評で、月齢の近い親子が隣になるよう配慮し、今後の見通しが 感じられるような声掛けを行うなど、親同士の会話が弾む工夫を行い、不安の軽減や相互の情報交換につながった。また、気軽に利用できる場として継続利用にもつながり、安心し て過ごせる居場所としての機能向上につながった。 ・0歳児家庭に対しては、育休中の父親が赤ちゃんと2人で来館するよう促すことで産後の母親の休息時間の確保につなげるとともに、平日に「パパの赤ちゃん教室」を開催し、毎回 テーマを設けた学びの時間や父親同士の交流の時間を設定することで継続参加者を増やし、多様な養育者の利用拡大につなげた。父子のふれあいを深める事業を通して、父親が 育児に自信を持って取り組む姿が見られるようになった。																																																																																																																																	
3 多様な世代や養育家庭が訪れる場となる工夫 ・外国籍家庭の困りごとに対応できるよう、国際交流ラウンジやあーす ぶらざと連携しながら情報提供を行い、就学や入園等の通訳派遣の協力を得るなどのサポートにつなげた。ま た、定期的なイベント開催により、「地域で知り合いを作りたい」というニーズに応えることで養育者同士の交流機会を提供した。これにより、多様な養育者が安心して利用できる環境 づくりにつながった。 ・多胎児家庭向けの集まり「ツインスターズ」では、職員によるこどもの見守りのもと、養育者同士が安心して話せる時間を設け、共通の悩みを共有できる関係づくりが進み、仲間づく りの促進と孤立予防につながった。 ・発達に不安のある家庭を対象とした「なないろ」では、公認心理士が同席する日を設け、専門的な視点からの相談対応を行うことで、養育者の不安軽減とともに適切な支援機関へ のつなぎを行うことができ、ニーズの把握と支援への連携がよりスムーズになった。 ・「はっち」では毎月第2土曜日に父親が参加しやすいイベントを実施し、通常利用時も父子が楽しめるよう工夫した。また、サテライトでは毎月第4土曜日に父子限定の「パパday」を 開催した結果、父親の利用機会が拡大し、(R7年父親の年間利用者数が過去最大4,450人、前年比230％)多様な養育者の利用促進とともに、母親のリフレッシュ機会の確保につな がった。 ・日曜開館を年4回実施し、平日に利用が難しい家庭や保育園利用家庭にも利用機会を提供し、休日を拠点で過ごすことで地域との接点を持ってもらうことができた。また休日開館 時には「でんしゃのへや」「水遊び」「はっち祭」など参加しやすいイベントを企画し、地域との継続的なつながりの形成や、養育者同士の関係性も深めることができた。 ・「はっちボランティア」(高校生～70歳代、登録48名)が、見守り・装飾制作・背守り刺繍・ウッドデッキ塗り・公園あそびの見守りなど多様な活動に参加したことで、多世代交流が促 進された。令和7年度は延べ222名の見守り交流を達成し、孤立しがちな子育て家庭に地域との接点と安心感を提供するコミュニティ形成につながった。 ・発達に不安のある家庭、外国籍家庭、多胎児家庭、ひとり親家庭を対象とした事業を実施し、それぞれの生活課題の把握や仲間づくりの支援を行うことができた。																																																																																																																																	

4 アウトリーチによる遠方の利用者への支援 ・地域に向くアウトリーチ活動を継続的に実施することで、拠点から距離のある家庭の潜在的ニーズを把握できた。特に、区内のケアプラザ10か所および公園12か所への訪問を通じて、拠点や近隣の子育て支援の情報を広く周知し、拠点の利用が難しい離れた地域の区民に対しても、子育て支援者会場や、地域子育てサロンなど地域の社会資源の利用につなげることができた。 ・公園あそびの実施にあたっては、主任児童委員や子育てサークルへ事前周知を行い、多世代交流が生まれるよう工夫した結果、地域のつながりづくりを促進した。 ・サテライトを起点とした港南台生き生きプレイパークへの遠足を実施し、これまで外あそびや公園利用の機会が少なかった家庭の参加の促進につながった。
5 親育ち・こどもが健やかに育つ居場所 ・こどもが健やかに育つ居場所づくりとして、多様な特性を持つこどももみんな一緒に楽しく学び・遊べる環境づくりに取り組んだ。トランポリンや昆虫飼育、野菜栽培などの体験活動を取り入れ、乳幼児期の興味関心を引き出すとともに、五感を使った遊びや自然とのふれあいを通して、こどもの成長を促すひろばづくりを推進した。 ・また、養育者がこどもと共に遊び込める環境(ブラレール・工作コーナー等)や企画を実施し、養育者自らが「あそびの楽しさ」やこどもとの関わりを主体的に学べる場を整えた。その結果、多くの養育者が子育ての喜びを実感する姿が見られるようになった。 ・こども同士のトラブルに対しては、双方の気持ちを受け止めることの大切さを養育者に伝え、見守る姿勢やこどもの気持ちを尊重した関わりを促した。こうした関わりを通して、養育者がこどもの成長過程を理解し、関わり方を学ぶ機会を提供した。 ・さらに、親育ち支援として保育士や助産師による講座(「おむつはずれ」「イヤイヤ期」「1歳ごろのくうねるあそび」「卒乳」等)を実施するとともに、区主催の「ペアレントトレーニング」の実施協力を行い、養育力の向上につながった。 ・加えて、1歳児と養育者向けイベントでは養育者同士が交流できる時間を設け、悩みの共有や相互支援の機会を創出したことにより、「困っているのは自分だけではない」と気持ちの安堵感を引き出し、孤立感や育児不安の軽減につながった。 ・会議等のない時は2階研修室を工作や身体を使った遊び場として開放し、ひろばの環境を1階と2階で「動」と「静」に分けることで、こどもの発達や過ごし方に応じた環境を整備した。コロナ禍には安全性の確保と同時に利用制限を最小限に抑えたことで、感染防止と多様な親子が安心して利用できる環境づくりにつながった。
評価の理由(区)
・有識者から示された「予防型支援」「支援につながりにくい家庭へのアプローチ」「養育者同士のつながりづくり」等の視点を踏まえ、拠点と継続的に課題共有を行いながら、妊娠期からの切れ目ない支援や、多様な家庭が利用しやすい居場所づくりに取り組んだ。 ・母子健康手帳交付時・両親教室・乳幼児健診・訪問等区事業のあらゆる機会を活用して拠点周知を行うとともに、母子保健コーディネーター等との連携を強化し、妊娠期から拠点利用につながる体制づくりを進めた。 ・共働き家庭や父親・多胎児家庭・外国籍家庭等多様な家庭への支援について、拠点とともに事業企画や実施方法を検討し、事業に反映することができた。平日に利用しにくい家庭や、地域資源につながっていない家庭へのアプローチ、養育者同士のつながりづくりについて、今後も拠点と検討していく。 ・今後も、利用者アンケートや地域データ等を活用しながら、支援が届きにくい層への具体的なアプローチ方法を拠点と整理するとともに、地域の中で養育者同士がつながる仕組みづくりについて、実施・検証まで含めて協働で進めていく必要がある。
拠点事業としての成果と課題
■成果 妊娠期からの切れ目ない支援を目的に区と拠点が協働で両親教室や健診等を通じた周知、母子保健コーディネーターとの連携、妊娠期向け講座等を実施することで、妊娠期から拠点利用につながる家庭が増加した。また、父親、多胎児家庭、外国籍家庭、発達に不安のある家庭など、多様な家庭が安心して利用できる居場所づくりを進めた結果、本拠点とサテライトの合計利用者数が過去最大を記録した。さらに、アウトリーチやオンライン活用、ボランティアの参加等により、地域とのつながりや多世代交流の機会を広げ、養育者同士が交流し支え合える場づくりにつながった。 ■課題 はっちから離れたエリアの家庭、平日に利用しにくい家庭、地域資源につながっていない家庭等へのアプローチについては、具体的な実践や効果検証が十分ではなかった。 養育者同士のつながりづくりについて、継続的な関係形成や地域への広がりまで十分整理できていない。今後は、多様な利用者ニーズや地域データを踏まえ、支援が届きにくい家庭への具体的な働きかけや、身近な地域の中で孤立を防ぐ仕組みづくりを区と拠点が協働して進める必要がある。地域住民が主体的に開催している子育てサロンなどインフォーマルな地域の子育て支援活動に対する参加者の増加への支援やアウトリーチ活動(公園あそびなど)の参加者の増加など、はっちを利用しにくい区民への子育て支援を充実させ、評価ができる仕組みを作りたい。 また、拠点スタッフは、こども同士の関わりを、発達段階に応じた関係づくりの機会として捉えられるよう、養育者に対し、具体的な関わり方を示すモデルとなる支援など、スタッフの関わりを通して、養育者が適切な声掛けや対応を学び、こどもの社会性や発達を促す環境づくりを目指すことが必要である。

振り返りの視点

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)																																																																									
		法人	区																																																																								
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	・スタッフ定例会等で相談内容について検討や研修や勉強会等を通してスタッフ同士が学び合いの日々の対応をより良いものにしていくことが必要。 ・区に対して緊急で相談が必要な案件の判断が、施設長がいなくてもでき、施設長以外でも区に相談できる仕組みを作っていくことが必要。	A	A																																																																								
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		A	B																																																																								
評価の理由(法人)																																																																											
<table><tr><td colspan="3">子育ての相談をしやすい雰囲気ですか (区乳幼児健診・はっちアンケート)</td></tr><tr><td>H30 年度</td><td>そう思う 61%</td><td>そう思わない 3%</td></tr><tr><td>R5年度</td><td>そう思う 84%</td><td>そう思わない 1%</td></tr><tr><td>R7 年度</td><td>はっち そう思う 84% サテ そう思う 81.6%</td><td>はっち そう思わない 0.9% サテ そう思わない 0.5%</td></tr></table>				子育ての相談をしやすい雰囲気ですか (区乳幼児健診・はっちアンケート)			H30 年度	そう思う 61%	そう思わない 3%	R5年度	そう思う 84%	そう思わない 1%	R7 年度	はっち そう思う 84% サテ そう思う 81.6%	はっち そう思わない 0.9% サテ そう思わない 0.5%																																																												
子育ての相談をしやすい雰囲気ですか (区乳幼児健診・はっちアンケート)																																																																											
H30 年度	そう思う 61%	そう思わない 3%																																																																									
R5年度	そう思う 84%	そう思わない 1%																																																																									
R7 年度	はっち そう思う 84% サテ そう思う 81.6%	はっち そう思わない 0.9% サテ そう思わない 0.5%																																																																									
<table><thead><tr><th>年度</th><th>相談人数</th><th>相談件数</th><th>相談の多い項目①</th><th>相談の多い項目②</th><th>相談の多い項目③</th><th>赤ちゃん相談件数</th><th>公認心理師相談件数</th><th>保育・教育コンシェルジュ相談件数</th></tr></thead><tbody><tr><td>R3年度</td><td>1904</td><td>2102</td><td>子どもの生活 30%</td><td>就園・就学 17%</td><td>親自身 14%</td><td>39</td><td>45</td><td>47</td></tr><tr><td>R4年度</td><td>2030</td><td>2288</td><td>子どもの生活 31%</td><td>就園・就学 15%</td><td>親自身 13%</td><td>44</td><td>45</td><td>47</td></tr><tr><td>R5年度</td><td>2094</td><td>2354</td><td>子どもの生活 35%</td><td>就園・就学 14%</td><td>親自身 11%</td><td>34</td><td>27</td><td>45</td></tr><tr><td>R6年度</td><td>2598</td><td>2935</td><td>子どもの生活 37%</td><td>就園・就学 14%</td><td>地域情報12%</td><td>43</td><td>34</td><td>44</td></tr><tr><td>R7年度 はっち</td><td>2403</td><td>2895</td><td>子どもの生活 37%</td><td>就園・就学 14%</td><td>地域情報12%</td><td>44</td><td>33</td><td>40</td></tr><tr><td>R7年度 サテ</td><td>1305</td><td>1688</td><td>子どもの生活 32%</td><td>子どもの発達16%</td><td>就園・就学15%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R7年度合計</td><td>3708</td><td>4853</td><td>子どもの生活 35%</td><td>就園・就学 14%</td><td>地域情報12%</td><td>44</td><td>33</td><td>40</td></tr></tbody></table>				年度	相談人数	相談件数	相談の多い項目①	相談の多い項目②	相談の多い項目③	赤ちゃん相談件数	公認心理師相談件数	保育・教育コンシェルジュ相談件数	R3年度	1904	2102	子どもの生活 30%	就園・就学 17%	親自身 14%	39	45	47	R4年度	2030	2288	子どもの生活 31%	就園・就学 15%	親自身 13%	44	45	47	R5年度	2094	2354	子どもの生活 35%	就園・就学 14%	親自身 11%	34	27	45	R6年度	2598	2935	子どもの生活 37%	就園・就学 14%	地域情報12%	43	34	44	R7年度 はっち	2403	2895	子どもの生活 37%	就園・就学 14%	地域情報12%	44	33	40	R7年度 サテ	1305	1688	子どもの生活 32%	子どもの発達16%	就園・就学15%				R7年度合計	3708	4853	子どもの生活 35%	就園・就学 14%	地域情報12%	44	33	40
年度	相談人数	相談件数	相談の多い項目①	相談の多い項目②	相談の多い項目③	赤ちゃん相談件数	公認心理師相談件数	保育・教育コンシェルジュ相談件数																																																																			
R3年度	1904	2102	子どもの生活 30%	就園・就学 17%	親自身 14%	39	45	47																																																																			
R4年度	2030	2288	子どもの生活 31%	就園・就学 15%	親自身 13%	44	45	47																																																																			
R5年度	2094	2354	子どもの生活 35%	就園・就学 14%	親自身 11%	34	27	45																																																																			
R6年度	2598	2935	子どもの生活 37%	就園・就学 14%	地域情報12%	43	34	44																																																																			
R7年度 はっち	2403	2895	子どもの生活 37%	就園・就学 14%	地域情報12%	44	33	40																																																																			
R7年度 サテ	1305	1688	子どもの生活 32%	子どもの発達16%	就園・就学15%																																																																						
R7年度合計	3708	4853	子どもの生活 35%	就園・就学 14%	地域情報12%	44	33	40																																																																			
1 相談しやすい場の工夫をする ・ひろばスタッフが日常会話の中から子育て中の困りごとを聞き取れるよう、相談しやすい雰囲気づくりと関係構築に努めてきたことで、養育者とスタッフの間に安心して相談できる信頼関係が形成され、気軽に相談できる場となっている。 ・相談を受けた際には寄り添いながら丁寧に傾聴し、利用者が安心して気持ちを表出できる環境を整えるとともに、必要に応じて相談室の活用や見守り体制の調整を行ったことで、誰もが安心して相談できる環境づくりにつながった。また、相談内容に応じて子育てパートナーへつなぐなどスタッフ間の連携も強化し、安心して相談できる支援体制をつくった。利用者アンケートでは「相談しやすい雰囲気」との回答が両拠点で80.0%となり、取組の効果が確認できた。 ・父親の来館増加に伴い、スタッフが気軽に話せる関係づくりを意識したことで「父親も相談できる場」としての信頼が高まり、父母双方が安心して相談できる拠点づくりにつながった。 ・同様の悩みを持つ利用者同士をつなぐことで、利用者自身が安心して悩みを共有できる関係性づくりが進み、主体的に相談できる環境になっている。 ・発達面など継続的支援が必要なケースについては、ひろば連絡票による記録・共有を行い、拠点内および両拠点での連携を強化することで、一貫した対応が可能となり、安心して継続的に相談できる体制づくりにつながった。 ・サテライトにおいても積極的な声かけを行うことで関係づくりを進め、本拠点と同様に相談しやすい環境整備に努めた。 ・家族支援に重点を置いた相談事業を行う中で、母親からの相談をきっかけに、父親とも話をする機会を持つことができた事例があった。この事例では、夫婦がともにこどもの幸せについて考え、協力していく過程を継続的に支えることができた。																																																																											
2 スタッフ研修により全員が知識を持ち多様な相談に対応できるようスキルアップを図る ・区との毎月の定例会で区の事業や相談対応方法を共有するとともに、こどもの権利擁護担当による虐待研修を受け、スタッフ全員で知識を得たことで、不適切養育が心配される親子への対応について共通理解を持つことができた。緊急時には子育てパートナーや施設長につなぐ体制も整えており、ひろばでの相談から関係機関の紹介や必要に応じて区へつなぐ流れについても職員間で確認しながら対応してきたことで、養育者が安心して相談でき、必要な支援につながる体制づくりが確立できた。 ・多様な養育者の相談に対応できるよう、精神保健福祉研修(基礎医学編)にオンラインで参加し、その内容をスタッフ定例会で共有するとともに研修報告を行い、知識の定着と対応力の向上を図った。 ・子育て支援者研修への参加や、離乳食に関する知識を栄養士から学ぶ機会を通して、相談の多い内容への理解を深め、日常の相談対応に生かすことができた。 ・拠点で実施した入園に関する講座についても定例会で共有し実際の相談場面で活用することで、より具体的な助言につなげることができ利用者からも「とても分かりやすかった」と好評を得た。 ・区の協力により療育センターの研修を実施し、その後の施設見学を通して関係機関との連携体制を構築することができ、発達支援が必要なケースを適切につなぐ体制の強化につながった。 ・日々の反省会や定例会で相談対応の振り返りを行うことで、スタッフ間での共有とスキル向上を継続的に図り、どの職員でも一定の対応ができる体制づくりを進めた。 ・発達や生活面で継続的な支援が必要な親子については、スタッフ間で情報共有を行い、来館時には丁寧な見守りと関わりを継続することで、関係機関につながった後も安心して利用できる場として関わりを持ち続け、養育者の心の安定とこどもの成長発達の支援に貢献することができた。																																																																											
3 専門相談ができる場を設けるとともにスタッフの知識向上につなげる ・助産師・公認心理士・保育・教育コンシェルジュによる専門相談日を設けることで、利用者が専門的な視点から相談できる機会を提供してきた。相談終了後には専門職と相談内容の共有を行い、その後スタッフ定例会などで学びや振り返りを行い職員のスキルアップを図ることができた。 ・利用者から相談の多い課題(おむつはずれ、イヤイヤ期、こどもの生活、卒乳など)については、保育士や助産師による講座を実施した。講座には拠点スタッフも同席し、利用者とともに内容を学ぶことで理解を深め、日常の相談対応に活かすなど、対応力の向上につなげた。																																																																											
4 区と連携して役割分担をしながら継続した対応を実施 ・区との毎月の定例会において、継続的な支援が必要な親子への対応について情報共有を行い、支援方針や関わり方を確認することで、適切な支援が行える体制の強化に努めてきた。 ・虐待が心配される家庭への対応については、ひろばでの相談段階から子育てパートナーへつなぐ体制を整えるとともに、緊急性が高い場合には当日中に区へ情報提供を行い、リスクのあるケースへの早期対応を行った。																																																																											

様式1－2 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)
・定例会やケース共有を通じて相談内容や支援状況の共有を行い、必要に応じて助言や研修を実施した。 ・地区担当保健師による地域説明や虐待予防等の研修を実施、地域療育センターの研修を調整し、拠点職員の相談対応力向上や、関係機関との連携強化を支援した。 - さらに、発達に不安を抱える家庭や、ひとり親家庭等への支援について、区と拠点で情報共有を行いながら、必要な支援につながるよう連携を進めた。 ・多様な相談に対応できる体制づくりや、継続支援・フォロー体制の具体化、専門機関との連携のあり方について、定期的な利用者支援事業の検討会の活用や事例が生じること、区として具体的に助言した。 ・今後は、拠点と区で役割分担や対応方法について、共通認識をもつことで迅速かつ適切に対応できる体制づくりが課題である。
拠点事業としての成果と課題
■成果 ひろばでの日常的な関わりを通して相談しやすい雰囲気づくりを行い、養育者に寄り添った丁寧な相談対応を継続した。また、助産師、公認心理士、保育・教育コンシェルジュ等の専門職との連携や、区との定例的なケース共有を行うことで、多様な相談内容に対応できる体制づくりを進めた。さらに、父親支援や発達に不安のある家庭への継続支援など、個別ニーズに応じた相談支援につながった。 ■課題 支援が必要な家庭への継続的な関わり方や支援終結の考え方、関係機関との役割分担については、区と拠点で共通理解を深める余地がある。 また、相談支援の質を安定的に確保するため、事例検討や研修を通じて人材育成を行うとともに、相談対応の共有や標準化を進め、継続支援や連携の仕組みを整理し、より効果的な相談支援体制の構築につなげていく必要がある。 一方で、本拠点とサテライトで相談件数の見え方に差があることから、今後は統計の取り方や相談分類の基準を整理し、実態を正確に把握することが課題である。
振り返りの視点 ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。 イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。 ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。 エ 各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。 オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、適切に対応しているか。 カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	・子育て情報を広くタイムリーに届けられるよう、区と拠点の持っている情報を結び付ける工夫が必要。 ・地域の子育て情報が拠点に集約されるよう、子育て支援関係者間での「地域子育てカレンダー」の共有化を図る。 ・より受け手に届きやすい情報発信ツールについて、引き続き検討を進めていく必要がある。 ・拠点の居場所以外の機能を知ってもらえるよう、更なる周知方法の検討が必要である。	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		A	B
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		A	B

評価の理由(法人)

【はっちからのラブレター(カレンダー)送付先】港南区内ひろば・サロン、地域ケアプラザ、地区センター、コミュニティハウス、図書館、小児科、産婦人科、保育園、幼稚園、南部病院、横浜医療福祉センター港南 アンパンマンこどもミュージアム 計186カ所			
はっちで得たい情報(拠点アンケート)			
	1 位	2 位	3 位
R4 年度	はっちイベント	区内施設イベント	近隣のお出かけ
R5 年度	はっちイベント	近隣のお出かけ	区内施設イベント
R6 年度	はっちイベント	区内施設イベント	近隣のお出かけ
R7 年度	はっちイベント	近隣のお出かけ	区内施設イベント
子育てLINEサービスwith港南アンケート(区実施)			
項目	第1回調査	第2回調査	
配信情報が役に立ったと感じた割合	70.0%	73.0%	
配信されたイベントに参加した割合	54.8%	70.2%	
SNS 発信(Instagram)			
はっち		サテライト	
R4 年 2 月開設	投稿/フォロワー		
R4 年 3 月	32/107		
R5 年 3 月	180/493		
R6 年 3 月	478/911	R7 年 2 月開設	投稿/フォロワー
R7 年 3 月	771/1,347	R7 年 3 月	15/256
R8 年 3 月	985/1,702	R8 年 3 月	200/850
R7 年 12 月より「港南区地域子育て情報」を開設			
子育てに関する情報は得られやすいですか(区実施)			
H30年度	そう思う	70%	
R5年度	そう思う	78%	

1 子育て情報の集約と提供 ・情報コーナーはカテゴリー別に配置し、利用者が必要な情報を取りやすいよう整理するとともに、スタッフが連携して利用者に適した情報を提供した。 ・区内の子育て支援関係者には、子育て連絡会や施設ネットワークを通じて情報提供の連絡を行い、拠点に常に最新チラシが集まるよう掲示・配布に努めた。 ・掲示物以外で知りたい情報があれば、スタッフがタブレットで速やかに検索し情報提供を行った。 ・区の協力により保育所園長会で施設リーフレットを収集・設置したことで、利用者へより詳しい情報提供が可能となった。 ・サテライトは他区からの利用者も多いため、近隣区の情報収集にも取り組んだ。 ・サテライト施設の外掲示板にはイベント開催情報を掲示し、拠点未利用者にも情報提供を行うことができた。 ・港南区子育て連絡会で周知することで各施設が希望する情報を把握し、「地域子育てカレンダー」掲載に生かすことができた。 ・拠点に来られない利用者への工夫として、ホームページやSNSを活用し、常に最新情報が効果的に子育て家庭へ届けられる仕組みを構築した。 ・特にInstagramは子育て家庭の利用が多く、フォロワーは拠点1,700件、サテライト850件と急増し、区内支援者からも拠点のInstagram発信を求める声が上がったほか、発信したことで、地域の子育て支援活動の参加者増加の効果も見られた。 ・その結果、令和7年度には「港南区地域子育て情報」のInstagramを新設し、ホームページと連動させながら地域情報の発信を開始した。併せて、二次元コードの活用についても利用者へのPRを工夫した。 ・近隣区の保育園情報や日曜日に遊びに行けるところの情報提供、専門相談、子育て連絡会のPRなど港南区の拠点だからこそのわかる情報(子育てパートナーの資源調査から得た情報)を提供することで、利用者のニーズに応える情報発信につながった。 ・相談しにくいDVや児童虐待についても、専門相談窓口の情報を掲示場所や手に取りやすい方法で提供する工夫を行い、利用者が安心して相談につながるができるよう配慮した。その結果、拠点が個別の困りごとにも対応できる相談機能を担っていることへの理解につながった。	2 区との協働で、より届きやすい情報発信ツールの開拓への取組 ・地域の子育て支援関係者からの情報を集約し、区運営の「子育てLINEサービスwith港南」の発信に拠点が協力、エリア別(東西南北)に月2回の配信を行った。 ・子育て世代の利用が多いInstagramで拠点の様子や子育て支援関係者の活動を発信し、掲示板・ホームページ・SNSを活用して最新情報を提供した結果、子育て家庭のニーズに応えることができた(利用者アンケートでは「子育て情報が得られやすい」と回答した割合が78.0%)。 ・ケアプラザの自主事業なども発信し、情報発信を通じて地域の支援者とのつながりを広げるとともに、各媒体で情報を掲示・発信した。 ・「バマトコ」にも毎月情報を掲載し、継続的な情報発信を行っている。 ・「港南区保育・教育施設特集」の冊子を拠点・区・つどいの広場と連携して入園を検討する家庭へ配布し、配布終了後は拠点ホームページから閲覧できるよう整備した。 ・より多くの方に情報を届けることを目指し、「ひまわりまっぷ」の電子化に向けたWebアンケートや利用者ヒアリングに、拠点として取り組んだ。また、区が令和5年12月に開設した「港南区子育てサイトここなび」にも協力し、Webでの情報発信の充実を図った。その結果、多くの方に利用され、好評を得ていた。 ・令和8年3月の「港南区子育てサイトここなび」終了を機に、Instagram「地域子育て情報」のアカウントを新たに開設し投稿を開始したところ、イベント申込数の増加につながった。 ・Instagramは保存数を指標として活用するとともに、「この前のZoomが楽しかった」などの反応も得られている。 ・アンケートで要望の多かった「区内施設のイベント情報や近隣のお出かけ情報」について、拠点が把握しているネットワークを活用して収集し、掲示板・ホームページ・SNS等で最新情報を提供した結果、子育て家庭のニーズに応えることができた。 ・利用者アンケートでは「子育て情報が得られやすいと感じる」と回答した割合が78.0%となり、困ったときには拠点到相談したいと考える利用者や、子育て情報を発信する際に拠点へ相談したいと考える子育て支援者の増加につながった。	3 拠点の居場所以外の機能の周知 ・はっちからのラブレター(カレンダー)送付先として、港南区内のひろば・サロン・地域ケアプラザ・地区センター・コミュニティハウス・図書館・小児科・産婦人科・保育園・幼稚園・南部病院・横浜医療福祉センター港南・アンパンマンこどもミュージアム等計186カ所へ毎月配布し、区内の子育て情報の普及を図った。 ・広報よこはま港南区版に毎月、拠点のイベントや子サボ入会説明会などを掲載し、継続的かつ安定した情報発信により区民への認知向上につながった。 ・サテライトの開所にあたっては、広報よこはま港南区版や地域の無料誌(はまかぜ)に掲載してもらうことで、子育て家庭にとどまらず多世代への周知を行い、拠点機能の理解につなげた。 ・イトーヨーカドー(上永谷・別所)に直接交渉し、赤ちゃん休憩室に拠点情報コーナーを設置するとともに定期的な情報更新を行うことで、日常的な来店者に対しても継続的に情報提供を行うことができ、拠点未利用者への新たなきっかけが生まれた。 ・アウトリーチ活動や4か月健診・両親教室・ひろば・ケアプラザなどにスタッフだけでなく、子育てパートナーや子サボのコーディネーターが出向き、居場所以外の拠点機能について周知を行ったことで、利用前から顔の見える関係性が構築され、来館時の安心感の醸成につながった。 ・地域の自治会関係者の会議に参加し、拠点の7つの機能について周知することで、地域関係者の理解と連携が深まり、地域全体で子育てを支える基盤強化につながった。
--	---	---

様式1－3 地域子育て支援拠点事業評価シート

4 拠点の情報発信における養育者や担い手の関わり

- ・子育て家庭に地域の子育てを応援する人のネットワークを知ってもらうため、港南区子育て連絡会の年間活動を継続的に拠点のホームページから発信し、地域の支援資源の理解促進につながった。
- ・子育てサークルの活動紹介やメンバー募集のチラシを拠点のひろば内に掲示し周知の協力をしたことで、利用者と地域活動をつなぐきっかけづくりとなった。
- ・区の補助を受け区民講座を開催するボランティア団体の周知に拠点が協力し、今後の運営についても相談に応じたことで、活動の継続と担い手支援につながった。
- ・オンライン講座では入園を考えている養育者に向けて、現在保育園に通う保護者の協力で情報を伝えることができ、実体験に基づく理解しやすい情報提供につながった。
- ・おしゃべりタイムで母からの情報（お出かけ情報、便利グッズなど）を集約して館内掲示する取組をR7年度から実施しており、利用者同士の情報共有と参加の促進につながっている。

評価の理由(区)

- ・健診や訪問等を通じた拠点周知や、SNSを中心に子育てサイトを活用した情報発信について、拠点と共有しながら取り組んだ。また、区が把握した子育て関連情報を拠点へ共有した。さらに、支援者や地域関係者に対しても拠点機能や子育て情報を周知し、地域の中で必要な家庭へ情報が届くよう支援を行った。
- ・SNSやホームページ等の情報発信は進んだものの、支援が届きにくい家庭や地域に対して、どの媒体・方法が有効であるかまで分析・検証する体制を十分構築できなかった。
- ・今後は、区として子育て家庭の情報取得状況やニーズを整理し、対象者ごとの効果的な情報発信方法を拠点と共有するとともに、利用者支援事業とも連動しながら、必要な家庭に必要な情報が届く仕組みを強化していく必要がある。

拠点事業としての成果と課題

■成果

区内外の子育て情報を幅広く収集し、館内掲示や地域子育てカレンダー・冊子配布・Instagram・LINE・WEBサイト等多様な媒体を活用しつつ受け入れやすい内容の情報発信を行い効果を上げた。また、アウトリーチや関係機関との連携を通じて、拠点未利用者や地域支援者にも情報が届く工夫を進めた。さらに、養育者や地域団体が情報発信や冊子編集等に関わる機会を設け、地域全体で子育て情報を共有する仕組みづくりにつながった。

■課題

情報発信媒体の拡充により情報提供の機会は広がった一方で、効果の検証を行いながら利用者が必要な情報にたどり着きやすい情報整理や、家庭状況に応じた情報提供については更なる工夫が必要である。
情報発信に関しては多様な利用者のニーズや地域特性を踏まえた情報整理を行うとともに、支援が必要な家庭へ確実に情報が届き、利用や地域活動に参加し孤立化を予防するため、パマトコへの発信、ホームページの充実、Instagramの情報発信方法の整理などデジタルを活用するだけでなく、ひろばの掲示板や自治会掲示板活用、個別性のある声掛けなど、誰も取り残さない情報提供の方法を検討していく必要がある。

振り返りの視点

- ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。
イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。
ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。
エ ネットワークを活かして情報を収集し、養育者や担い手に提供しているか。
オ 様々な子育て支援情報を拠点が集め、提供していることを広く区民に周知しているか。
カ 養育者や担い手から拠点到情報が届けられる仕組みや工夫があるか。
キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)																																																																										
		法人	区																																																																									
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	・子育てひろば・サロンを運営する方々の交流会の開催にあたり、内容についての検討が必要である。 ・「遊びにおいてよこどもフェスティバル春・秋・冬」がなくなり保育園と連携する場面が減ったため、別の方法で連携をとる工夫が必要である。	A	A																																																																									
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。	・「子育て連絡会」に参加するメンバーが、子育て連絡会の活動目的を共有しながら、より主体的に必要な取組について意見交換できるように支援していくことが必要である。 ・エリア別の「子育て連絡会」を通して、より身近な地域でのネットワークづくりの充実を図っていく必要がある。	A	B																																																																									
評価の理由(法人)																																																																												
(主なデータ) H30年度港南区子育て連絡会 会員50団体 賛助会員19団体 <table><thead><tr><th colspan="3">R5年度 港南区子育て連絡会活動実績 (会員53団体 賛助会員30団体)</th></tr></thead><tbody><tr><td>全体会</td><td>区役所 (3回)</td><td>参加者のべ 178名</td></tr><tr><td>推進委員会</td><td>拠点 (6回)</td><td>参加者のべ 120名</td></tr><tr><td>エリア会議</td><td>区内ケアプラザ4施設(4回)</td><td>参加者のべ 77名</td></tr><tr><td>子育て講演会(虐待防止)</td><td>港南公会堂</td><td>参加者 113名</td></tr><tr><td>講演会班</td><td>拠点 (6回)</td><td>参加者のべ 76名</td></tr><tr><td>ニュースレター班</td><td>拠点 (12回)</td><td>参加者のべ 77名</td></tr><tr><td>情報班</td><td>拠点 (4回)</td><td>参加者のべ 32名</td></tr><tr><td>活動実績</td><td>合計 36回</td><td>合計 参加者のべ 673人</td></tr><tr><th colspan="3">R6年度 港南区子育て連絡会活動実績(会員 51 団体 賛助会員 35 団体)</th></tr><tr><td>活動実績</td><td>合計 37 回</td><td>合計 参加者のべ 705 人</td></tr><tr><th colspan="3">R7 年度 港南区子育て連絡会活動実績 (会員 46 団体 賛助会員 41 団体)</th></tr><tr><td>活動実績</td><td>合計 34 回</td><td>合計 参加者のべ 744 人</td></tr></tbody></table><table><thead><tr><th colspan="2">地域ネットワーク会議(開催および参加)</th></tr></thead><tbody><tr><td>つどい・居場所定例会 主催</td><td>年3回</td></tr><tr><td>ひろば・サロン交流会 主催</td><td>年1回</td></tr><tr><td>子育て連絡会研修会 共催</td><td>年1回</td></tr><tr><td>3館合同まつり実行委員会 共催</td><td>年5回</td></tr><tr><td>永谷地区社協定例会 拠点説明</td><td>年1回</td></tr><tr><td>主任児童委員定例会 拠点説明</td><td>年1回</td></tr><tr><td>こんにちは赤ちゃん訪問定例会 拠点説明</td><td>年1回</td></tr><tr><td>ケアプラザコーディネーター会議 拠点説明</td><td>年1回</td></tr><tr><td>子育て支援者定例会 拠点説明</td><td>年1回</td></tr><tr><td>港南台子育て連絡会 参加</td><td>年12回</td></tr><tr><td>ひまわりフェスタ会議 参加</td><td>年2回</td></tr><tr><td>港南区施設ネットワーク会議 参加</td><td>年2回</td></tr><tr><td>港南区要保護児童連絡協議会 参加</td><td>年3回</td></tr><tr><td>港南区オレンジ会議(4 か所) 参加</td><td>年4回</td></tr><tr><td>港南区中学校校長会 事業依頼</td><td>年2回</td></tr><tr><td>港南区小学校校長会 事業依頼</td><td>年1回</td></tr></tbody></table> 1 港南区子育て連絡会を中心とした地域のネットワーク構築のための活動 ・拠点は開所以来、港南区子育て連絡会の事務局的役割を担い、所属団体とのきめ細やかな連絡調整を行ってきた。特にコロナ禍では、活動が停滞しないよういち早く会議・研修会・講演会をオンライン化し、運営を支援した。 ・港南区子育て連絡会では区内を4エリアに分け、地域の課題抽出とネットワーク強化を目的としたエリア別会議を実施した。拠点はすべてのエリアに参加し、参加者の取りまとめや議事録の収集を行い、その後の全体会において円滑な情報共有ができるよう後方支援を行った。 ・ひろば・サロン交流会を開催し、つどいの広場・ケアプラザ職員・主任児童委員など地域の担い手が抱える課題を共有できるようになり、解決に向けて話し合う場となった。 ・子育て当事者による地域活動団体に対し連絡会を紹介するとともに、賛助会員の誘致を通して新たな会員の拡大にも取り組んだ。これにより、より多くの層と地域課題を共有する場を持つことができた。 ・日頃からこんにちは赤ちゃん訪問事業・民生委員児童委員連絡協議会・ケアプラザコーディネーター定例会・親と子のつどいの広場との合同定例会等多様な関係機関との会議や懇談を重ねている。その結果、拠点事業への理解と協力体制が深まり、必要に応じて個別に情報共有や相談対応を行うなど、地域の支援者との協力関係を築き、きめ細やかな支援が可能になった。 ・これらの取組を通して、関係機関・地域団体・住民が連携し、子育て家庭を支えるネットワークが構築された。 ・また、居場所事業の終了に際しては、地域の支援が不足しないよう区・保育園・ケアプラザと意見交換を行い、今後の方向性を整理した。 ・港南台子育て連絡会にも継続的に参加することで、保育園やボランティア団体と顔の見える関係を築き、拠点の情報発信機能を通じてノウハウを地域へ還元した。またサテライト開所後は調整会議にも参画し、運営の一助を担い更なる連携を深めることができた。 2 アウトリーチの機会を活用して、より多くのネットワーク構築を図る工夫 ・出張はっちでは、区内10か所のケアプラザを会場として地域の親子を誘致しているが、事前に主任児童委員や子育て支援者など地域の関係者へも積極的に参加を呼びかけた。その結果、事業を通じた顔の見える関係づくりが進み、地域における連携の強化につながった。 ・公園あそびにおいては、子育て支援者や近隣の子育てサークルにも参加を促し、サークル活動の紹介の機会を設けたことで、当日参加した子育て家庭と地域の活動団体とをつなぐことができた。その結果、その後の継続的なつながりが生まれ、地域で子育て家庭を支えるネットワークの構築と強化を図ることができた。 3 地域の課題を解決するために、ネットワークを利用して子育て資源を復活 ・公園が少ない地域において「こどものあそび場」が閉鎖された際には、地域から外遊びの機会を減らしたくないとの相談を受けた。これを受け、区地域振興課と拠点で協議を重ね、保育園やNPO団体と連携し新たな運営団体を立ち上げた。その結果、保育園と地域の子育て家庭が共に利用できる公園として再生することができた。 4 子育て支援ニーズを踏まえ、様々な社会資源と連携・協力 ・外で遊ぶ機会を求める養育者の声を受け、日野中央公園と連携し花壇にチューリップの球根を植える取組を実施した。イベントをきっかけに親子が継続して公園を訪れるようになり、外遊びの定着につながった。また、子育て家庭に限らず近隣住民も楽しめる機会となり、多世代交流の場となった。 ・日本語でのコミュニケーションが難しい外国籍家庭に対しては、国際交流ラウンジと連携し、それぞれのニーズに応じた支援を行った。また、商業施設と連携し赤ちゃん休憩室内に情報コーナーを設置するなど、多様なネットワーク構築にも取り組んだ。 ・男女共同参画センターによる出張キャリアカウンセリングを拠点で実施し、養育者の社会復帰を後押しするなど、様々なニーズに対応した支援の幅を広げた。 ・新たに活動を始めたコミュニティカフェやこども食堂などの地域資源の情報を収集し、実際に見学したうえで、感想等を口頭で添えて紹介することで、必要とする家庭が地域資源を利用しやすいよう努めた。後日、利用者からは「行ってみてよかった」、支援者からは「紹介してもらってよかった」などの感想が寄せられた。日常的な顔の見える関係性を生かし、背景や目的を丁寧に踏まえながら、適切な支援先へつなぐことができている。 ・利用者の中から、地域活動や拠点活動に関わる人材も生まれており、当事者が担い手へとつながる動きがみられている。 ・センター園との連携では、「トイレトレーニング」「食育」「こどもとのかかわり方」などをテーマとした講座を継続的に実施した。専門的な視点を取り入れた支援により、養育者の育児力向上と不安軽減に寄与している。 ・ひろば・サロン交流会を開催し、つどいの広場や子育てサロンの運営に関わる職員が集まり、日常の課題を共有するとともに、解決策を検討する機会を設けた。 ・利用者を地域の支援資源や活動団体へとつなぐことで、ネットワークを生かした活躍の場を提供することができた。				R5年度 港南区子育て連絡会活動実績 (会員53団体 賛助会員30団体)			全体会	区役所 (3回)	参加者のべ 178名	推進委員会	拠点 (6回)	参加者のべ 120名	エリア会議	区内ケアプラザ4施設(4回)	参加者のべ 77名	子育て講演会(虐待防止)	港南公会堂	参加者 113名	講演会班	拠点 (6回)	参加者のべ 76名	ニュースレター班	拠点 (12回)	参加者のべ 77名	情報班	拠点 (4回)	参加者のべ 32名	活動実績	合計 36回	合計 参加者のべ 673人	R6年度 港南区子育て連絡会活動実績(会員 51 団体 賛助会員 35 団体)			活動実績	合計 37 回	合計 参加者のべ 705 人	R7 年度 港南区子育て連絡会活動実績 (会員 46 団体 賛助会員 41 団体)			活動実績	合計 34 回	合計 参加者のべ 744 人	地域ネットワーク会議(開催および参加)		つどい・居場所定例会 主催	年3回	ひろば・サロン交流会 主催	年1回	子育て連絡会研修会 共催	年1回	3館合同まつり実行委員会 共催	年5回	永谷地区社協定例会 拠点説明	年1回	主任児童委員定例会 拠点説明	年1回	こんにちは赤ちゃん訪問定例会 拠点説明	年1回	ケアプラザコーディネーター会議 拠点説明	年1回	子育て支援者定例会 拠点説明	年1回	港南台子育て連絡会 参加	年12回	ひまわりフェスタ会議 参加	年2回	港南区施設ネットワーク会議 参加	年2回	港南区要保護児童連絡協議会 参加	年3回	港南区オレンジ会議(4 か所) 参加	年4回	港南区中学校校長会 事業依頼	年2回	港南区小学校校長会 事業依頼	年1回
R5年度 港南区子育て連絡会活動実績 (会員53団体 賛助会員30団体)																																																																												
全体会	区役所 (3回)	参加者のべ 178名																																																																										
推進委員会	拠点 (6回)	参加者のべ 120名																																																																										
エリア会議	区内ケアプラザ4施設(4回)	参加者のべ 77名																																																																										
子育て講演会(虐待防止)	港南公会堂	参加者 113名																																																																										
講演会班	拠点 (6回)	参加者のべ 76名																																																																										
ニュースレター班	拠点 (12回)	参加者のべ 77名																																																																										
情報班	拠点 (4回)	参加者のべ 32名																																																																										
活動実績	合計 36回	合計 参加者のべ 673人																																																																										
R6年度 港南区子育て連絡会活動実績(会員 51 団体 賛助会員 35 団体)																																																																												
活動実績	合計 37 回	合計 参加者のべ 705 人																																																																										
R7 年度 港南区子育て連絡会活動実績 (会員 46 団体 賛助会員 41 団体)																																																																												
活動実績	合計 34 回	合計 参加者のべ 744 人																																																																										
地域ネットワーク会議(開催および参加)																																																																												
つどい・居場所定例会 主催	年3回																																																																											
ひろば・サロン交流会 主催	年1回																																																																											
子育て連絡会研修会 共催	年1回																																																																											
3館合同まつり実行委員会 共催	年5回																																																																											
永谷地区社協定例会 拠点説明	年1回																																																																											
主任児童委員定例会 拠点説明	年1回																																																																											
こんにちは赤ちゃん訪問定例会 拠点説明	年1回																																																																											
ケアプラザコーディネーター会議 拠点説明	年1回																																																																											
子育て支援者定例会 拠点説明	年1回																																																																											
港南台子育て連絡会 参加	年12回																																																																											
ひまわりフェスタ会議 参加	年2回																																																																											
港南区施設ネットワーク会議 参加	年2回																																																																											
港南区要保護児童連絡協議会 参加	年3回																																																																											
港南区オレンジ会議(4 か所) 参加	年4回																																																																											
港南区中学校校長会 事業依頼	年2回																																																																											
港南区小学校校長会 事業依頼	年1回																																																																											

様式1－4 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)
・区は、有識者からの助言を踏まえ、港南区子育て連絡会、エリア会議、ひろば・サロン連絡会等について、拠点と連携しながら支援を行った。また、主任児童委員、地域ケアプラザ、子育て支援関係者等との会議の場を調整し、拠点機能の周知や地域連携の促進に努めた。これにより、関係者同士が情報を共有し、顔の見える関係を築きながら、協力し合えるネットワークづくりが進められている。 ・共働き家庭や支援につながりにくい家庭等を意識したネットワークづくりについては、さらに検討が必要である。今後は、地域全体で支える視点を持ち、拠点や関係機関と連携しながら、必要な家庭に支援が届く取組を進めていくことが求められる。
拠点事業としての成果と課題
■成果 港南区子育て連絡会の事務局的役割を担い、エリア別会議やひろば・サロン交流会等を通じて、地域団体や子育て支援関係者が情報や課題を共有する場を継続的に支援することができた。出張はっちや公園あそび等のアウトリーチを通じて、区内全域にわたって利用者を地域資源や活動団体につなげる取組も着実に推進してきた。
■課題 今後は、ネットワークを生かして新しい活動団体や関係施設・子育て支援関係者ともつながり、更にネットワークの拡大を図る必要がある。特に地域とのつながりが希薄な家庭や、支援につながりにくい家庭に対して、拠点が把握している地域資源や新たな支援情報を丁寧に届け、必要な支援や地域活動へ切れ目なくつなげていくことが課題である。

振り返りの視点

ア 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。

イ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。

ウ 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、子育て支援分野に限らず、様々な社会資源と連携・協力した取組を実施しているか。

エ 養育者や子育て支援活動に関心のある人を身近な地域の子育て支援の場や地域の活動につなげているか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)																																																																									
		法人	区																																																																								
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができています。	・子育てグループの育成や支援の充実を図ることで、養育者が主体的に地域でつながりながら、子育てできる環境作りを支援していく必要がある。 ・子育て家庭を見守る地域全体の雰囲気づくりを進められるよう、地域や世代を超えたより一層の取組を進めていく必要がある。	A	B																																																																								
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		A	B																																																																								
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		B	A																																																																								
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		A	A																																																																								
評価の理由(法人)																																																																											
<table><tr><td colspan="3">はっちボランティア</td><td colspan="3">夏休み中学生1dayボランティア</td><td colspan="3">ブレママ・ブレバパパ利用</td></tr><tr><td></td><td>登録人数</td><td>活動数</td><td></td><td>実施日数</td><td>参加人数</td><td></td><td>ブレママ</td><td>ブレバパパ</td></tr><tr><td>H30年度</td><td>31</td><td>85</td><td>H30年度</td><td>18</td><td>10</td><td>H30年度</td><td>119</td><td>64</td></tr><tr><td>R3年度</td><td>40</td><td>122</td><td>R3年度</td><td>緊急事態宣言中のため中止</td><td></td><td>R3年度</td><td>149</td><td>118</td></tr><tr><td>R4年度</td><td>46</td><td>142</td><td>R4年度</td><td>10</td><td>34</td><td>R4年度</td><td>191</td><td>154</td></tr><tr><td>R5年度</td><td>45</td><td>208</td><td>R5年度</td><td>10</td><td>47</td><td>R5年度</td><td>247</td><td>180</td></tr><tr><td>R6年度</td><td>45</td><td>176</td><td>R6年度</td><td>10</td><td>50</td><td>R6年度</td><td>336</td><td>155</td></tr><tr><td>R7年度</td><td>48</td><td>はっち(182) サテライト(40) 222</td><td>R7年度</td><td>10</td><td>はっち(46) サテライト(37) 83</td><td>R7年度</td><td>393</td><td>218</td></tr></table>				はっちボランティア			夏休み中学生1dayボランティア			ブレママ・ブレバパパ利用				登録人数	活動数		実施日数	参加人数		ブレママ	ブレバパパ	H30年度	31	85	H30年度	18	10	H30年度	119	64	R3年度	40	122	R3年度	緊急事態宣言中のため中止		R3年度	149	118	R4年度	46	142	R4年度	10	34	R4年度	191	154	R5年度	45	208	R5年度	10	47	R5年度	247	180	R6年度	45	176	R6年度	10	50	R6年度	336	155	R7年度	48	はっち(182) サテライト(40) 222	R7年度	10	はっち(46) サテライト(37) 83	R7年度	393	218
はっちボランティア			夏休み中学生1dayボランティア			ブレママ・ブレバパパ利用																																																																					
	登録人数	活動数		実施日数	参加人数		ブレママ	ブレバパパ																																																																			
H30年度	31	85	H30年度	18	10	H30年度	119	64																																																																			
R3年度	40	122	R3年度	緊急事態宣言中のため中止		R3年度	149	118																																																																			
R4年度	46	142	R4年度	10	34	R4年度	191	154																																																																			
R5年度	45	208	R5年度	10	47	R5年度	247	180																																																																			
R6年度	45	176	R6年度	10	50	R6年度	336	155																																																																			
R7年度	48	はっち(182) サテライト(40) 222	R7年度	10	はっち(46) サテライト(37) 83	R7年度	393	218																																																																			
1 地域の子育て支援者を支える ・コロナ禍には区内のケアプラザより、子育て家庭が集まる部屋の感染対策について拠点の取組状況の情報提供を求められ、アドバイスを言い、他施設での安全な運営につながった。 ・地域の子育て支援関係者へ向けて港南区子育て連絡会と共催で、「父親支援」「孫育て・他孫育て」「児童相談所の理解」などをテーマとした研修会を実施することで、今後の相談対応に生かすことができるよう知識を共有した。 ・新規開所のつどいの広場に対しては開所前から協力体制や関係性を構築したり、妊娠期支援事業については計画段階から見学の受入れや備品貸出を行い、区内全体の妊娠期支援事業が活性化するよう支援を行った。 ・地域の子育てひろば、サロンへ向けて、活動内容や課題を共有する交流会を設けて、子育て支援のスキルアップとネットワークの強化につなげた。 ・子育てグループに対しては、区や子育て支援者と協力し、活動の課題を把握し解決策について考え、リーダー研修会を実施した。また、ひろば内掲示やSNS(Instagram)で広報を行い、会員募集や活動の活性化の支援を行った。 ・拠点がホームページやSNS(Instagram)を活用して地域の子育て情報を発信することで、周知に課題を抱える支援団体の情報発信を補完し、地域資源の活用促進にもつながっている。																																																																											
2 子育て支援活動の場を増やす ・港南区社会福祉協議会と連携し、希望者をはっちボランティアに案内し、はっちボランティア登録者には毎月案内を送付、ひろばの見守り・在宅での製作・装飾の提案と製作・イベントの手伝いなど地域活動のきっかけ作りを行い、活動の場を増やした。 ・「はっちボランティア」(高校生～70歳代、登録48名)が、見守り・装飾制作・背守り刺繍・ウッドデッキ塗り・公園あそびの見守りなど多様な活動に参加したことで、多世代交流が促進された。令和7年度は延べ222名の見守り交流を達成し、孤立しがちな子育て家庭に地域との接点と安心感を提供するコミュニティ形成につながった(再掲)。 ・地域で活動を希望するわらべうたや読み聞かせのグループが地域で活動できるよう働きかけ、ケアプラザや地区センターなど活動の場を増やすことができた。 ・拠点のイベントでは父親に簡単なボランティア活動を依頼し、継続的な関わりへとつなげることで、幼稚園の父親の会や小学校PTA、町内会活動への参加へと発展した事例も見られ、子育て世代を地域活動へつなげることができた。 ・利用者のニーズ把握を行い、グループ化することも検討している。 ・公園あそびへの支援や、防災訓練時に地域の自治会・町内会の防災体制を知らせ、地域の活動が安心安全な暮らしに必須であることを子育て家庭に伝え、担い手発掘の一助を担った。これらの取組により、拠点を起点としてボランティアや地域活動の担い手が育ち、子育て家庭が支えられる側から担い手へとつながる循環が生まれている。 ・養育者が中心となって作成した地域情報冊子「ひまわりまっぷ」や、R6年からの入園に関する情報冊子の作成において、養育者にもボランティアとして参画してもらい、養育者目線で港南区の保育園・幼稚園・認定こども園を紹介する冊子を作成した。入園を控えた家庭への有益な情報提供となるとともに、子育て当事者自身が知識を深める機会となり、担い手の育成と主体的な関わりの促進につながる取組を行った。																																																																											
3 子育て家庭を見守る大切さを知ってもらう ・主任児童委員やこんにちは赤ちゃん訪問員など、地域で子育て支援に関わる関係者の定例会において、妊娠期支援事業の説明を行い、拠点だけでなく近隣の親と子のつどいの広場でも同様の取組が実施されていることを周知した。これにより、地域の支援者が妊娠期からの切れ目のない支援を意識し、連携の視点を共有することができた。 ・芹が谷地区支えあいネットワーク会議に参加し、子育て家庭の現状や地域における見守りの必要性について考える機会を設けた。 ・下永谷地区社会福祉協議会の定例会を拠点で開催した際には、実際の施設見学を通して子育て家庭の様子や拠点の役割を理解してもらうことができ、地域住民の子育て支援に対する関心と理解を深めることにつながった。 ・様々な地域の支援者会議で拠点事業説明を実施、また地域の人たちに拠点に来ていただくことで拠点の役割を理解し、子育て世代の現状を共有、子育てをやさしく見守っていく体制の強化ができた。また、サテライトが開所したことにより港南台地区にも新たなつながりも生まれ、従来のエリアに加えてより広域でのネットワークが形成され、地域全体で子育て家庭を支える連携体制を構築できた。																																																																											
4 子育て世代と触れ合う次世代育成の取組 ・短大生・看護学生の実習や中学生の職業体験を積極的に受け入れ、拠点の役割や子育て支援の実際について学ぶ機会を提供した。ひろばでは乳幼児とのふれあい体験も行われ、いのちの大切さや子育ての現状について実感を持って理解する機会となった。 ・中学校校長会を通じて区内全中学校へ「夏休み中学生1dayボランティア体験」の周知を行った結果、多数の参加申し込みがあり、R7年度はサテライト開所で受け入れ枠を拡大することで、過去最高83名の中学生が乳幼児と関わる体験を得ることができた。また「はっち祭」のイベントにも中学生が参加し、通常のひろばとは異なる多様な親子の姿を学ぶ機会となった。 ・区が小学校で実施する「いのちの授業」への協力では、参加する親子の調整を担った。吉原小学校においてはオンラインで赤ちゃんふれあい授業を実施し、赤ちゃんを育てる保護者の気持ちを知ることができた。 ・毎月、妊娠期の方たちが来館しやすいイベントを実施する事で子育て家庭と交流しやすい場が提供でき、出産後の育児の見通しをもつことができた。 ・当事者の主体的な関わりを促す取組としては、父親向けイベント後に会場撤収やウッドデッキ塗装などの簡単なボランティア活動を依頼し、地域参加へのきっかけづくりや、当事者の特技を拠点で生かしてもらえよう、ピアノ演奏や絵本の読み聞かせなどのボランティアを日常的にすすめたことで、当事者が支援の担い手へと移行する機会を広げた。																																																																											

様式1－5 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)
・妊娠期事業を通じて、親と子のつどいの広場への事業実施の助言を依頼し実施した。 ・区は、有識者から示された「多様な家庭背景への理解」「地域支援者への知識提供」「専門職との連携強化」等の助言を踏まえ、地域支援者や関係機関との会議・研修等を通じて、子育て支援に関する情報共有を行った。 ・区として子育て家庭の現状や課題を整理したうえで、地域支援者向け研修の充実や、専門職との継続的な学びの場づくりを進め、地域全体で子育て家庭を支える基盤強化を図る必要がある。
拠点事業としての成果と課題
■成果 地域支援者向け交流会や研修会を継続的に実施し、父親支援や児童相談所の役割など、現代的な子育て課題について学び合う機会を設け、区内の子育て支援力の底上げを図ることができた。また、区民のボランティア活動や地域活動への参加支援を通じて、新たな担い手の発掘や活動継続につながった。さらに、中学生や学生の職業体験、赤ちゃんふれあい事業等を通じて、次世代育成や子育て家庭を地域で見守る意識醸成につながった。
■課題 区内のインフォーマルサービスである、子育てグループ、地域の支援者が運営している公園あそびが減少した。今後は、これに加え地域サロンの運営実態の把握をタイムリーに行いたい。インフォーマルサービスの減少の背景には多様化する子育て家庭の状況があることが想定されるが、拠点とともに実態の検証が不十分だった。 アウトリーチ活動で地域の情報を整理し、新たな担い手育成や次世代育成や地域の活動支援に生かしたい。

振り返りの視点
ア 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。かつ新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。 イ 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。 ウ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。 エ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。 オ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。 カ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。 キ 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。 ク これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)																																																																																																																																																		
		法人	区																																																																																																																																																	
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	・多様化している養育者のニーズに対応できるよう、様々な取組をさらに検討していく必要がある。 ・利用会員を適切な支援につなげるため、引き続き丁寧なニーズ把握に努めていく必要がある。 ・提供会員・両方会員の拡大に向けて、新たに小学校高学年保護者に向けに配布するための工夫が必要である。 ・専門的な対応が必要と思われる利用会員家庭に対して、提供会員がコーディネーターに相談しやすい環境と、各関係機関と連携できる仕組みづくりを構築していく必要がある。	A	A																																																																																																																																																	
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		A	A																																																																																																																																																	
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		A	A																																																																																																																																																	
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		A	A																																																																																																																																																	
評価の理由(法人)																																																																																																																																																				
<table><thead><tr><th rowspan="3"></th><th rowspan="3">全会員数 (人)</th><th colspan="3">会員数内訳(人)</th><th colspan="10">入会説明会(回数/参加人数)</th><th rowspan="3">活動件数 (人)</th><th rowspan="3">親子の居場所における活動 件数</th><th colspan="4">コーディネート件数</th></tr><tr><th rowspan="2">利用会員</th><th rowspan="2">提供会員</th><th rowspan="2">両方会員</th><th colspan="3">集団</th><th colspan="4">個別</th><th rowspan="2">相談数</th><th rowspan="2">キャンセル数</th><th rowspan="2">調整数</th><th rowspan="2">コーディネート数</th></tr><tr><th>拠点内(平日)</th><th>拠点内(土曜)</th><th>出張</th><th>拠点内</th><th>出張</th></tr></thead><tbody><tr><td>R3(2021)年度</td><td>720</td><td>590</td><td>107</td><td>23</td><td>13</td><td>36</td><td>10</td><td>70</td><td>18</td><td>27</td><td>55</td><td>66</td><td>11</td><td>11</td><td>1913</td><td>54</td><td>208</td><td>52</td><td>638</td><td>190</td></tr><tr><td>R4(2022)年度</td><td>822</td><td>678</td><td>120</td><td>24</td><td>12</td><td>57</td><td>11</td><td>69</td><td>22</td><td>59</td><td>70</td><td>78</td><td>9</td><td>10</td><td>1594</td><td>29</td><td>187</td><td>28</td><td>583</td><td>182</td></tr><tr><td>R5(2023)年度</td><td>935</td><td>791</td><td>118</td><td>26</td><td>11</td><td>82</td><td>13</td><td>128</td><td>27</td><td>79</td><td>61</td><td>74</td><td>17</td><td>22</td><td>2622</td><td>172</td><td>312</td><td>58</td><td>836</td><td>293</td></tr><tr><td>R6(2024)年度</td><td>936</td><td>785</td><td>130</td><td>21</td><td>12</td><td>114</td><td>11</td><td>134</td><td>26</td><td>88</td><td>45</td><td>45</td><td>13</td><td>13</td><td>2983</td><td>414</td><td>339</td><td></td><td></td><td>294</td></tr><tr><td>R7(2025)年度</td><td>1086</td><td>931</td><td>138</td><td>17</td><td>12</td><td>125</td><td>12</td><td>148</td><td>39</td><td>178</td><td>22</td><td>22</td><td>9</td><td>10</td><td>3437</td><td>512</td><td>416</td><td></td><td></td><td>295</td></tr></tbody></table>					全会員数 (人)	会員数内訳(人)			入会説明会(回数/参加人数)										活動件数 (人)	親子の居場所における活動 件数	コーディネート件数				利用会員	提供会員	両方会員	集団			個別				相談数	キャンセル数	調整数	コーディネート数	拠点内(平日)	拠点内(土曜)	出張	拠点内	出張	R3(2021)年度	720	590	107	23	13	36	10	70	18	27	55	66	11	11	1913	54	208	52	638	190	R4(2022)年度	822	678	120	24	12	57	11	69	22	59	70	78	9	10	1594	29	187	28	583	182	R5(2023)年度	935	791	118	26	11	82	13	128	27	79	61	74	17	22	2622	172	312	58	836	293	R6(2024)年度	936	785	130	21	12	114	11	134	26	88	45	45	13	13	2983	414	339			294	R7(2025)年度	1086	931	138	17	12	125	12	148	39	178	22	22	9	10	3437	512	416			295
	全会員数 (人)	会員数内訳(人)				入会説明会(回数/参加人数)										活動件数 (人)	親子の居場所における活動 件数	コーディネート件数																																																																																																																																		
		利用会員	提供会員			両方会員	集団			個別				相談数	キャンセル数			調整数			コーディネート数																																																																																																																															
				拠点内(平日)	拠点内(土曜)		出張	拠点内	出張																																																																																																																																											
R3(2021)年度	720	590	107	23	13	36	10	70	18	27	55	66	11	11	1913	54	208	52	638	190																																																																																																																																
R4(2022)年度	822	678	120	24	12	57	11	69	22	59	70	78	9	10	1594	29	187	28	583	182																																																																																																																																
R5(2023)年度	935	791	118	26	11	82	13	128	27	79	61	74	17	22	2622	172	312	58	836	293																																																																																																																																
R6(2024)年度	936	785	130	21	12	114	11	134	26	88	45	45	13	13	2983	414	339			294																																																																																																																																
R7(2025)年度	1086	931	138	17	12	125	12	148	39	178	22	22	9	10	3437	512	416			295																																																																																																																																
1 妊娠期からの周知 ・区の協力を得て広報よこはま港南区版・母子手帳交付時・両親教室・赤ちゃん教室・こんにちは赤ちゃん訪問・4か月児健診・1歳6か月児健診等で「こどもをあずけたい！」チラシを配布し、入会説明会の周知に努めた。 ・拠点事業の沐浴体験・ブレママ・ブレババプチ体験で妊娠期の方への周知を行い、妊婦の入会説明会への参加者が増えた。産後すぐ(0歳児)の登録が増えた。 ・子育て連絡会を通じて、子育て支援に関わる団体にチラシ配布の協力を得、より多くの区民への周知になった。 ・拠点から遠い地域の方にも参加しやすいよう区内施設の協力を得て説明会会場を設定し、サテライト(2025年度10回)・親子のつどいの広場(2021年度6回、2022年度6回、2023年度8回、2024年度8回、2025年度11回)・地域ケアプラザ・地区センター(2021年度10回、2022年度10回、2023年度17回、2024年度17回、2025年度18回)でも回数を増やして開催した。拠点における集団での入会説明会は平日だけでなく土曜日の開催を続けたことで、平日の参加が難しい方の参加や男性のみや家族での参加が増え、年度ごとに着実に会員数を延ばすことができ、2025年度は初めて1,000人を超えた。 ・入会説明会開催時に登録手続きまで一緒にいき、78.8%の方が登録されている(2021年度参加者209名登録160名、2022年度参加者260名登録235名、2023年度参加者370名登録290名、2024年度参加者394名登録272名、2025年度参加者483名登録385名)。コーディネーターが丁寧な対応を行い登録まで一緒に行った結果、スムーズな登録が可能となった。																																																																																																																																																				
2 提供会員獲得に向けた取組 ・区の協力で広報よこはま港南区版に提供会員募集を掲載したところ多くの反響があり、提供会員を増やすことができた。 ・提供会員予定者研修会は就労家庭が参加しやすい日曜日に開催した。これは18区の内港南区のみの取組であり提供会員が増えた。 ・区の協力で小学校就学時健診でチラシを配布、中学校では新入生の保護者向けにチラシを配布し、子サポ事業の周知を行った。また、中学生の孫から話を聞き、祖母が提供会員として登録されサポート活動を行う実績もあった。																																																																																																																																																				
3 養育者のニーズに応える支援 ・依頼を受けた際には丁寧に聞き取りを行い、引き続き丁寧な事前打合せを行い安全なサポートが出来るように細やかなコーディネートを行った。 ・子サポの預かりを拠点で行う際には、ひろばを利用中の養育者に子育てサポートシステムの預かり中であることを説明した。活動中の様子をひろば利用者が見ることで、新たな利用につながった。 ・無料クーポン券の周知により拠点ひろば預かりも含め利用のハードルが下がり、通常利用している拠点でのひろば預かりが安心感を感じる養育者も多く、無料期間終了後もひろば預かりの継続利用につながり、月25～30件ほどの利用実績となった。 ・入会説明会を拠点での個別対応や家庭への訪問でも行い集団では参加しにくい家庭の入会も丁寧に対応した。 ・年度更新時にサポート利用中の養育者へ電話で連絡を取り更新手続きを促した。 ・コロナ禍や集団の説明会に参加できない家庭に対して、2021年度9件、2022年度9件、2023年度15件、2024年度12件、2025年度8件の個別・訪問対応を行い利用につなげることができた。 ・利用中の養育者へコーディネーターが電話等で継続利用を直接促すことで、利用件数も2025年度には3,500件に近づくほど増加した。 ・依頼を受けた際には丁寧に聞き取りを行い、状況によっては施設長・子育てパートナー・ひろばスタッフと情報共有し、親子にとって必要な支援に繋げることができた。また、援助活動の中では、提供会員とも緊密に連携し、親子を支える体制が強化された。 ・利用者支援や区保健師からの依頼などで子育てに疲れている養育者の利用については、子育てパートナー・区と情報共有することができた。 ・依頼内容により提供会員が見つからない場合や、相談者の状況に応じて他の支援機関・サービス(保育園の一時保育・地域の支援サービス・子育てタクシー・ベビーシッター等)を紹介し、対応につなげた。																																																																																																																																																				
4 提供会員の活動継続に向けた取組 ・活動報告書を丁寧に確認し、提供会員に連絡を取り、円滑に活動が行えるように配慮した。こまめな連絡で信頼関係を築いたことで、子サポの活動の大切さを感じて活動していただいている。 ・拠点ひろばでの活動時には、コーディネーターが提供会員と積極的にコミュニケーションを取り、心理的負担を軽減させることで、拠点での預かりを希望する提供会員や利用会員が増えた。 ・交流会を開催し、日頃の活動やヒヤリハットについて会員間で情報共有をし、安全な預かりについて周知徹底をした。 ・5年に1度の受講が必須となった緊急救命講習は、対象者に電話で連絡を取り、安心・安全な活動が行われるよう港南消防署の協力のもと行った。 ・「個人情報の取り扱い」「安全に活動いただくための留意点」について注意喚起をシステムの一斉メールで送付。事前打合せ時に「チェックリスト」にて徹底した。 ・更新の時期には、家族の介護・自身の高齢・パートとの両立などを理由に退会を検討する方が増えてきたので、サポート内容が様々なこと、共働き家庭が多くこどもの見守りに地域の力が必要なることを理解いただき更新を促進することで退会者数の減少に努めた。 ・子サポの預かりは単独の活動となりがちなので、交流会、講習会など年2回開催し、安心・安全な預かりにつなげた。また、交流会や拠点預かり時に日頃の活動での困り事や疑問などを丁寧に拾いサポートすることで、提供会員の退会を防ぎ継続活動につなげられた。																																																																																																																																																				

様式1－6 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)
・子育てサポートシステムについては、母子健康手帳交付時や健診・訪問・両親教室等を活用し、妊娠期からの周知を行った。また、エリア別の周知や学校を通じた働きかけ、広報よこはま港南区版の活用により、提供会員の確保に向けた取組を実施した。 ・子サポdeあずかりおためし券(無料クーポン)は有料利用への呼び水となっており、制度周知の際に併せて説明を行うことで利用促進を図った。 ・入会時や利用時の丁寧な聞き取りにより、個別ニーズに応じたコーディネートが実施されていることを定例会で確認した。必要に応じて同行支援を行うなど、初めて利用する家庭への配慮についても拠点と協力して取り組んだ。 ・コーディネーターによる継続的なフォローにより、利用者が安心して利用できる体制が整備されていることを確認した。 ・専門機関との連携が必要な家庭については、関係機関と調整を行いながら拠点への協力依頼を実施した。 ・提供会員への丁寧な支援により活動継続が推進されていることを、定例会等を通じて確認した。
拠点事業としての成果と課題
■成果 会員数および利用件数が増加し、地域における支え合いの仕組みの定着が進んでいる。出張説明会や個別対応の実施により、利用困難な家庭にも制度を広げることができている。また、提供会員の確保に向けた取組により担い手も増加した。そのほか会員向けの交流会や研修の実施により、会員同士のつながりや活動継続が促進されている。多様なニーズに応じた柔軟な支援や他サービスへのつながりが実現している。 ■課題 提供会員・両方会員のさらなる確保に向けた取組が必要である。特に就労世帯や新たな層へのアプローチ方法の工夫が求められる。多様化・複雑化するニーズに対応するためのコーディネート力の強化も必要であるとともに、専門的支援が必要な家庭への対応について、関係機関との連携強化が求められる。安全対策や個人情報管理、会員フォロー体制の継続的な充実も課題である。

振り返りの視点

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を含め、利用したい人が利用に結びつくための工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに安心安全な活動ができるよう、丁寧なコーディネートができているか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や追加のフォロー等を行っているか。
- カ 活動における事故防止のための講習、個人情報取扱いに関する注意喚起など、会員への安全対策をはかっているか。
- キ 提供・両方会員が安心・安全な活動を継続して行えるよう研修会等の取組がなされているか。
- ク 会員が活動の意義を感じられ、会員間の親睦を深め信頼関係の構築のため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ケ 援助活動の調整時や会員の声から把握した子育てのニーズを地域子育て支援拠点としての事業に活かしているか(新たな事業の実施や事業の見直しなど)
- コ 利用相談の内容に応じて、子育てサポートシステム以外のサービス等の情報提供や関係機関に適切につないでいるか。
- サ 専門対応が必要と考えられる相談については、専門機関に適切につないでいるか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)																																											
		法人	区																																										
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	・さらに認知度を上げるため、拠点・区とともに周知を工夫していく必要がある。 ・利用者支援事業としての相談機能の更なる強化や必要な時に必要な支援につないでいくために拠点全体で仕組みづくりを充実させていく必要がある。 ・妊娠期の事業から見えてくる、妊娠期家庭のニーズ把握により一層努めていくことで、新たな事業展開や区との連携等についてつなげていく必要がある。 ・妊娠期からの切れ目のないアプローチについて、母子保健コーディネーター等と連携した取組が必要。 ・拠点を利用していない親子とつながるために、アウトリーチ方法を考えていく必要がある。	A	A																																										
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。		A	A																																										
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。		A	B																																										
評価の理由(法人)																																													
【横浜子育てパートナー認知度】		【相談件数と相談内容】																																											
<table><tr><th></th><th>拠点実施</th><th>区乳幼児健診</th><th>支援者</th></tr><tr><td>H30年度</td><td>56%</td><td>27%</td><td>－</td></tr><tr><td>R5年度</td><td>46%</td><td>49%</td><td>66%</td></tr><tr><td>R6年度</td><td>60%</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>R7年度</td><td>63.20%</td><td>－</td><td>－</td></tr></table>			拠点実施	区乳幼児健診	支援者	H30年度	56%	27%	－	R5年度	46%	49%	66%	R6年度	60%	－	－	R7年度	63.20%	－	－	<table><tr><th>R3年度</th><th>414件</th><th>親自身 29%</th><th>子どもの生活 18%</th><th>その他 14%</th></tr><tr><th>R4年度</th><th>380件</th><th>子どもの生活 30%</th><th>親自身 25%</th><th>子どもの発達・発育 8%</th></tr><tr><th>R5年度</th><th>315件</th><th>子どもの生活 33%</th><th>親自身 22%</th><th>子どもの発達・発育 10%</th></tr><tr><th>R6年度</th><th>321件</th><td colspan="3" rowspan="2">令和6年度4月より新システム導入のため相談内容は数値化不可能</td></tr><tr><th>R7年度</th><th>349件</th></tr></table>		R3年度	414件	親自身 29%	子どもの生活 18%	その他 14%	R4年度	380件	子どもの生活 30%	親自身 25%	子どもの発達・発育 8%	R5年度	315件	子どもの生活 33%	親自身 22%	子どもの発達・発育 10%	R6年度	321件	令和6年度4月より新システム導入のため相談内容は数値化不可能			R7年度	349件
	拠点実施	区乳幼児健診	支援者																																										
H30年度	56%	27%	－																																										
R5年度	46%	49%	66%																																										
R6年度	60%	－	－																																										
R7年度	63.20%	－	－																																										
R3年度	414件	親自身 29%	子どもの生活 18%	その他 14%																																									
R4年度	380件	子どもの生活 30%	親自身 25%	子どもの発達・発育 8%																																									
R5年度	315件	子どもの生活 33%	親自身 22%	子どもの発達・発育 10%																																									
R6年度	321件	令和6年度4月より新システム導入のため相談内容は数値化不可能																																											
R7年度	349件																																												
【区民への出張周知活動】 R5年度23回 R6年度52回 R7年度62回 区両親教室、区・拠点ワーキングママパパ両親教室、子育てサロンの訪問・班活動への出席、港南台子育て連絡会、こうなんこどもゆめワールドでの出店 港南区子育て連絡会全体会・推進委員会・班活動・エリア会議 港南台子育て連絡会 子育て支援者会議 里親養育懇談会 【出張相談場所】R4年度36か所 R5年度40か所 R6年度19か所、R7年度33か所 親と子のつどいの広場、港南台子育て連絡会七夕まつり、主任児童委員の子育てサロンサテライトでの出張相談(利用者支援が開始されるまでR7年4月からR8年2月まで) 【情報収集先】 R6年度84か所、R7年度87か所 地域ケアプラザ(10か所)、地区センター、区民活動支援センター、Gallery & Cafe Pono、みんなの居場所 花まる、Irodori、港南台かもめ団地集会所 株式会社MUJI HOUSE、助産師、保育・教育コンシェルジュ等 【R8年3月よりはっちサテライトに子育てパートナーを配置し利用者支援事業を開始した】																																													
1 区民への周知活動 ・コロナ禍に区民まつりや親と子のつどいの広場や子育てひろば等で、子育てパートナーの専用ダイヤル記載のウェットティッシュを配布して周知活動を行った。 ・年末には相談専用ダイヤルが記載された卓上カレンダーを利用者や子育て支援関係者に配布し、年間を通じて相談利用につながるよう工夫をした。 ・港南区子育て連絡会・港南台子育て連絡会・虐待問題連絡会など当事者だけでなく子育てに関わる支援者の会議に出席し利用者支援の機能を伝えた。 ・養育者には地域へ出張相談(年平均32か所)に向向くアウトリーチ活動、子育て支援者会議に出席し、情報交換するとともに、利用者支援の機能も伝え、周知を強化した。令和5年度には46.0%だった認知度が令和7年度には63.2%に達した。 ・児童相談所主催の里親養育懇談会に出席し、拠点事業や利用者支援事業の機能を参加者にお知らせした。 ・令和8年3月よりサテライト(港南台)で利用者支援事業が開始した。1月より子育て支援関係機関に向向き顔が見える関係づくりを進めた。 ・区の協力により、広報よこはま港南区版を活用して利用者支援事業開始を広く周知することができ、事業の認知度向上につながった。 ・区内の子育て支援者と顔の見える関係づくりを進めてきた結果、拠点には利用者支援の専門相談員が配置されていることを養育者に伝えてもらうことができ拠点に訪れる利用者が増えた。																																													
2 利用者支援事業としての相談機能の更なる強化や拠点全体の仕組みづくりについて ・相談者の主体性を尊重し、毎回相談者の気持ちに寄り添う相談を心がけた。また、相談者のニーズに合わせた情報提供を心がけ、相談者が選択できるよう案内に努めた。毎回丁寧に相談に応じる姿勢に徹した結果、年平均355件の相談に応じることができた。内容に応じて個別のニーズに応じた相談先と連携しながら相談対応を行うことができた。拠点だけではなく地域の中で見守ることができたケースがあったり、拠点事業の参加者が地域の居場所で担い手になったケースもあった。 ・相談者が相談場所やオンラインなど相談方法を選択できるよう、毎月「パートナー相談日」を設定し、相談を申し出やすい体制を整えた。 ・母が泣き出したり、こどもから離れたい希望があった場合は、ひろばスタッフが子を見守る体制を整え、連携しながら相談対応した。 ・サテライトの開所後、反省会や定例会の機会を利用し、ひろばスタッフの利用者支援事業について知識が深められるよう情報交換した。 ・支援が必要な親子の情報を子育てパートナー間や施設長と共有し、今後の対応について検討し協力体制を整えた。 ・心配な親子について区と共有するタイミングなど、両拠点の子育てパートナーと施設長で判断し適切な対応を行った。 ・区からの要請で関係機関とのケースカンファに出席し、要保護家庭を各施設と連携して見守る体制に協力した。 ・拠点内では毎日の反省会や定例会の機会を利用して、相談に関する職員間の協力体制を構築することができ、相談者が安心して相談できる環境を整えることができた。 ・産後育児不安が高い方には相談者のニーズを確認し、関係機関につなげることができた。 ・毎月の区とのカンファレンスや要保護児童ネットワーク会議では、専門職職員との協議で自らのスキル向上や今後の対応の糸口がつかめ相談事業に生かすことができた。																																													
3 妊娠期の事業について新たな事業展開や区・母子保健コーディネーターと連携した取組 ・コロナ禍には妊娠期家庭に沐浴体験などの個別対応にも応じ、安心して赤ちゃんを迎える準備をしてもらい産後の利用や相談にもつながった。それによって出産後の利用や相談につながる効果がみられた。 ・妊娠期家庭のニーズの高い「沐浴体験」や「赤ちゃんとの生活プチ体験」の運営に積極的にかかわり、出産前に拠点利用のハードルを取り除く工夫を行った。 ・参加者の声から「プレママおしゃべり会」が生まれ、出産後に拠点を安心して利用でき、妊娠期からの仲間づくりが進むよう対応した。 ・フルタイム勤務のため、両親教室の参加が難しい方を対象に、母子保健コーディネーターと連携して「港南区にお住まいのワーキングママ・パパのための両親教室」(会場は区と拠点で2回ずつ計4回)を開催したところ拠点を知らぬよい機会となり、参加者も順調に増やすことができた。 ・妊娠期からの切れ目ない支援を目的に区の両親教室へ出向き出産前に拠点利用のハードルを取り除くことや、母子保健コーディネーターと連携して就労家庭へむけた両親教室事業を開催し、参加しにくい妊娠期家庭に多面的な効果をもたらすことができた。																																													

様式1ー7 地域子育て支援拠点事業評価シート

4 拠点を利用していない親子とつながるためのアウトリーチおよび地域資源の開拓

- ・港南区子育て連絡会、港南台子育て連絡会を起点に地域の方と顔の見える関係を作り、親子を見守るネットワークの構築を進めた。
- ・港南台子育て連絡会主催の「七夕まつり」では子育て相談コーナーを区保健師や地域の子育て支援関係者と共に担当し、来場された子育て当事者への相談対応や地域資源の紹介を行った。
- ・主任児童委員主催の「おやこコンサート」では運営の手伝いに伺い、参加者に拠点の周知を行うとともに主任児童委員の皆さんと顔の見える関係づくりができた。
- ・公務員住宅跡地エリア(新築入居後の子育て家庭が多い地区)で港南中央地域ケアプラザのコーディネーターと親子の居場所づくりを企画し、日野サザンポート(特別養護老人ホーム)を借りて開催した。地域の仲間づくりの支援を行うなか、町内会立ち上げの課題などコーディネーターと情報共有することができた。
- ・港南区社協とフードバンク横浜共催の「フードバンク」を見学し、実施方法や支援できる家庭について知り、今後対象家庭への周知に活用することができた。
- ・ひとり親を対象とした事業を行う際には区担当職員の意見などを参考に協働で開催をした。
- ・港南区子育て連絡会のエリア会議、虐待予防のオレンジ会議に参加し、学校関係者など新たな関係機関とのネットワーク構築を進めることができた。
- ・関係者、関係機関との情報交換を円滑に進めることができた。また、変化する地域資源の把握と活用を進めることもでき、相談時に養育者に提示する支援の選択肢を広げることができた。
- ・コロナ禍でも子育て支援者が開催している子育てひろばに訪問し、ひろばの感染対策なども一緒に考え、支援者との関係構築や安全なひろば運営について協力体制が整えられた。
- ・港南区子育て連絡会の関係構築をきっかけに、地域の上大岡第一子育てサロンから出張相談の依頼を受けることができた。
- ・港南区虐待問題連絡会に参加し、区内の状況を学び心配な親子を見守る関係機関との連携の輪が広がった。
- ・野庭地区の子育て支援課題を区や関係機関と協議し、これからの出生状況なども踏まえながら支援策について考えることができた。
- ・新しく港南区に生まれている子育て支援の活動や、関係機関より情報提供された団体へアウトリーチしてきたことで、拠点や利用者支援事業についてお知らせすることができ、新たな関係構築や養育者に対する情報提供の一助となった。

評価の理由(区)

- ・拠点における利用者支援事業は、妊娠期からの切れ目のない支援を重視し、母子手帳交付時や両親教室・乳幼児健診等を活用した周知により認知向上が図られた。
- ・妊娠期から区の母子保健コーディネーター等と連携した支援に加え、ひろばでの関わりを通じ相談へつなぐ対応が丁寧に行われている。
- ・拠点から距離のある地域や来所が難しい家庭へのアプローチを推進するために、アウトリーチの活動を実施している。
- ・相談対応においては、利用者の主体性を尊重しながら、日常的な関わりの中で信頼関係を構築し、安心して相談できる環境が整備されている。
- ・定例会等を通じた事例共有や振り返りにより、スタッフ間の支援力向上を図っている。さらに、発達や養育に不安を抱える家庭の増加に対応し、専門機関と連携した適切な支援が行われている。
- ・把握した課題を関係機関等と十分に共有しきれなかったため、今後は必要な資源や支援の創出につなげていけるような体制を構築していく。

拠点事業としての成果と課題

■成果

妊娠期からの周知と体験機会の提供により、出産前から拠点につながり、利用者との関係性を早期から築くことができ、産後の利用や相談へと円滑につながる流れが定着している。また、アウトリーチにより区内全域への支援展開が進み、遠方地域や未利用層への接点が拡大した。ひろばでの丁寧な関わりと、相談しやすい雰囲気づくりにより日常の中で相談も生まれている。母親だけでなく父親や多様な養育者の利用・相談が増え、支援対象の広がりが見られるほか、専門職相談や関係機関連携により、発達や養育不安等の課題に対して適切な支援が提供されている。

■課題

港南区は地理的に広く鉄道路線の違い等があり、平日就労している家庭など、拠点に来所しにくい家庭への支援について今後も課題である。また、遊び方・しつけ・生活上の関わり方についての相談が多く、育児に関する養育者への支援の充実が必要である。相談内容や情報発信が多様化・複雑化する中で、「必要な情報が分かりにくい」という課題も見られる。相談者が適切な選択肢を取れるよう広く知らせる方法だけではなく、個性性のある対応ができるように、支援の標準化やスキル向上も引き続き必要である。孤立化するリスクがある、シングル家庭・外国籍家庭や発達に課題のある家庭など、多様なニーズへの対応も求められている。アウトリーチ活動やネットワークを活用し、地域ごとの特性に応じた支援を検討する必要がある。関係機関連携を強化し、拠点だけではなく地域資源を活かした支援の推進も重要である。定例会を活用し上の課題について共有、検討を行っていく。

振り返りの視点

ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。

イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。

ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。

エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。

オ 拠点内でパートナーの役割を理解し、日頃から相談者を拠点内でつなげ合うことについて、お互いの役割分担を明確にしたうえで、相談対応・利用支援を行っているか。相談者の相談内容に応じて継続対応やつなぐ必要性を判断し、対応しているか。

カ 専門的な対応を要する相談に対して、相談内容と相談者のニーズを踏まえ、速やかに関係機関への紹介・仲介・支援依頼を行うなど、適切な対応をとっているか。

キ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら、フォローをしているか。

ク 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点で振り返りや検討を行っているか。

ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。

コ 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。

サ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整、提案や新たな創出につなげているか。

協働事業プロセス相互検証シート

1 事業計画段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・コロナ禍での感染症拡大防止のための運営方法やコロナ後の通常運営に向けて、区と拠点で状況を確認し利用者にとって安全・安心な運営計画を考えることができた。
・役割分担表を作成する際には目標の確認や実施方法をすり合わせながらすすめた。
・妊娠期支援についてニーズの確認や支援のあり方を区と拠点で検討し協働で事業計画を立案した。
・事業計画の作成にあたり評価指標や優先順位、役割分担の整理を行ったが、一部において双方の認識について十分共有しきれない事項があった。

【今後改善が必要と思われること】

・子育て家庭の現状や地域特性に関する情報を共有しながら、事業目的や対象をより明確にし、優先順位を整理し、効果的な事業計画につなげていくことが必要である。
・今後も事業を実施する際には拠点の目指す姿を照らし合わせながら、継続的にやらなければならない事と時代の変化に対応した事業の検討を区と拠点が進めていく必要がある。
・計画段階から役割やスケジュールを明確にし、進捗状況を確認しながら取り組める仕組みづくりを進めていく必要がある。

2 事業実施段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・妊娠期からの切れ目のない支援や多様な家庭への支援、相談対応、地域とのネットワーク等について情報共有を行いながら互いに連携を図ることができた。また母子保健コーディネーターとの連携や各種事業についても協働による成果を確認した。
・事業目標を達成していくためには定例会などを通じて進捗確認をしながら、今後の実施方法について検討していくことが大切なことを共有できた。
・支援につながりにくい家庭へのアプローチや養育者同士のつながりづくりについては、課題を共有しながら事業に取り組むことができた。今後は、その成果や効果についても振り返りを行い、さらなる充実につなげていきたい。
・事業を実施するにあたり、お互いの強みを生かし役割分担し取り組んだ。一部において十分共有できない事項があった。

【今後改善が必要と思われること】

・毎月の定例会などで月次報告を丁寧に振り返り、各事業の進捗や改善点を共有する時間をさらに充実させる必要がある。
・事業を実施していく中で重点目標に対する取組等状況を確認と、目指す拠点の姿を照らし合わせながら、見直しを持った検討をしていく必要がある。

3 事業の振り返り段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・事業振り返りの機会を通じて、妊娠期支援や多様な家庭への支援、人材育成、アウトリーチ等の実績について共有できた。
・区と拠点で中間振り返りを行うことで事業の進捗状況・考え方の違いについて確認ができ、年度内に事業修正をすることができた部分もあった。
・常勤だけでなく非常勤スタッフも7つの事業を理解し意識して活動に取り組めるように区と拠点で協議し定例会の持ち方を変えた。
・有識者から示された課題への対応状況や事業効果の捉え方など区と拠点の役割について、更に共通理解を深める必要があることが確認された。
・地域活動や子育てサロン等へのつながりについては、その後の利用状況や継続参加状況を把握・共有する仕組みが十分ではなかったことを確認した。

【今後改善が必要と思われること】

・取組状況や成果を継続的に確認できるよう、評価指標や進捗管理の方法を整理する必要がある。
・定例会を情報共有の場に留めず、課題の整理、進捗確認、効果検証を行う場として活用し、区と拠点が共通の認識をもって協働を進めていく必要がある。
・拠点が地域資源のつながりや継続利用の状況について把握できる仕組みや事業の成果をわかりやすく示す方法を、区とともに検討する必要がある。
・年度内の中間振り返りと年度末の振り返りを軸に、拠点と区が達成点と未達点を確認し次年度への協働を継続していく必要がある。